

資 料 説 明 書

1 計画及び委員会の趣旨

■「第5次木更津市男女共同参画計画」について

本市では、平成6年度に「木更津市女性行動計画」を策定し、その後「木更津市男女共同参画計画」第1次から第4次を策定し、男女共同参画の推進に取り組んでまいりました。

現在は、第5次計画となり、男女共同参画社会の実現に向けて、男女共同参画社会の形成に関する施策を、体系的・総合的に推進しています。第5次の計画期間は、令和4年度から令和8年度までの5年間となっており、計画に掲げる基本目標や施策等については、毎年度、事業計画を立て、それに基づき各課が取り組み、翌年度にその進行管理結果を公表しております。

■「木更津市男女共同参画推進委員会」について

本委員会は平成6年度に設置され、本市の男女共同参画の促進に関し、市長の諮問に応じ、調査、審議するとともに、その実施について建議することを目的としております。

「本市の男女共同参画社会づくり全般に関すること」、「本市の男女共同参画施策に関すること」、「男女共同参画計画にかかる計画事業の進行管理に関すること」などについて、推進委員の皆様にご審議していただき、いただいたご意見を反映させ、本市の男女共同参画施策の推進に努めてまいります。

今回、事前アンケートの結果等を踏まえてご意見をお伺いいたします。

2 報告について

(1)「第5次木更津市男女共同参画計画」について

現行の第5次計画について、多くの意見をいただきありがとうございました。

まず、第5次計画について簡単にご説明します。令和3年度に計画を策定した際に、前期の第4次計画の事業数が200を超えており、重複も多く見られたことから、事業数の絞り込みを行いました。また、国及び県の計画を参考にしたことから、男女共同参画の隣接課題となる外国人や障がい者施策も取り入れました。また、性的マイノリティについても対応が求められていくことが予想されたため、計画に取り込みました。

これまでの計画では、市民の声を反映した指標が採用されていませんでしたので、市民アンケートの結果を反映した指標を新たに取り入れました。このほか、市民アンケートをこれまで実施してこなかったことから、冒頭の統計情報をカットし、コンパクトな計画を目指したところです。

基本目標や主要課題、施策に関しては検討を重ねましたが、評価方法については従来のも

のを踏襲し、詳細な検討を行わなかったため、今後改めて検討していくことが必要であると考えます。

まず、評価軸の「A・B・C・実施しなかった」について、Bの占める範囲が広すぎるというご意見について、ご指摘の通りだと考えておりますので、来年度の実施計画の際に修正を加える予定です。ただ、大枠としての「A・B・C・実施しなかった」に関しては、評価方法の一貫性を保持する必要がある変更することができませんので、Bを細分化し、達成度に応じて「B＋・B・B－」といったような差異を表すものとする予定です。

次に、定性的・定量的な実施計画の作り方を徹底し、「何を・いつ・どれくらい」行うかが明確となるよう庁内各課にアナウンスを行い、場合によっては担当課に修正の依頼を行うことも考えております。評価を行う時に、達成度合いを明確にできる目標を年度当初に設定することで、改善を加えていきたいと考えております。

（２）次期計画の方向性について

次期計画の方向性について、多くの意見をいただきありがとうございました。男女共同参画に特化する計画、広く共生の要素を取り込んだ計画のいずれにもメリット、デメリットがあり、どちらが適切なのか今後もさらなる議論を重ねていけたらと思います。

現在の社会の流れとしては、広く共生の要素を取り込んでいく考え方にシフトしてきていますが、計画のタイトルに「男女共同参画」という文言があることによって多くの齟齬を生じさせていることも事実です。

お送りした資料の中に「J o b Q掲載記事」というものがございます。こちらをご覧くださいとこれまでの本市の男女共同参画施策の大まかな流れが見えると思います。これまでのところ、本市は共生社会の方向に進んでいることがお分かりいただけると思いますが、今一度この方向性で進むべきかについても再検討を行いたいと考えております。

これは一例ですが、計画から「男女共同参画」という言葉を外して、「共生」をメインに据えることで男女共同参画をその下に位置付けていく可能性も考えられます。本市の目指す姿に即して考えると、これが一番自然な形なのかもしれません。とは言え、本計画は「男女共同参画社会基本法」に基づいて策定する法定計画ということもあり、クリアすべき課題は数多く存在するのも事実です。

以上のように、「男女共同参画」を「共生」の下に位置付けて施策を進めていくか、それともあくまでも「男女共同参画」を中心に置き、「共生」に関することを補足的に取り込んでいくかという分岐点に私たちはいます。次期計画ではこういった方向性・コンセプトを採用して策定に臨んだらいいかという点について、改めてご意見をいただければと思います。